

東京の荒川さん。

「インターンって受け入れてますか？」
学生が社会研修として
企業に短期間入り、
様々な事を学ぶ「イ
ンターン制度」の問い
合わせがなんと農協に。

農協としては、教えるということも不慣れな

ため、あまり普段はそのような募集はしていないのですが、
わざわざ言ってくるくれたのなら、と東京の大学生、荒川さんが
2週間馬路村に来てくれることとなりました。東京から単身800人
の村に抵抗なくやってきた彼女は、田舎の各地を直接体験して、将来
的な移住を考えているそうで、ありがたいことに馬路村にも魅力を

感じ、アプローチしてくれました。

そのバワフルさと笑顔で、初日から畑作業
をバリバリとこなし、Aコープや荷造り
などの少し覚えることの多い仕事も、
自分だけでなく周りも明るく、こな
していつく、あまりこちらから
何かを教えるというわけでもなく、
逆に荒川さんにたくさんのエネルギー
をもらった気がします。「まあ
こんな遠くによく来たねえ」と村
民からも愛され、イノシシなどの
村のこちそうもすっかりといたたい
たそうです。受け入れた側の馬路村
ですが、荒川さんのおかげで村の中
になにか新しい風のようなものを感じること
ができ、感謝感謝の短い2週間でした。

荒川さん、本当にありがとう、またいつか。



タラの芽

村の春の
こちそうの
筆頭で、村
の所々で、
芽吹いた
その存在を
見ることが
できますが、これ
も村の特権として
直売所などでほぼ出回ることもなく、
村民の中で消費されていきます。村内では、
芽からほんの少し伸びたものも好まれ、だ
いたい収穫したその日のうちに食べるので、
伸びたとして全くえぐみ無く食べられます。
タラの芽の天ぷらで、お腹いっぱいとなる
ぜいたくは田舎でしか味わえないものです
かね。「まあ食べて」とどっさり、ぜいたく
をもらえることが待ち遠しい春です。



村の春の
こちそうの
筆頭で、村
の所々で、
芽吹いた
その存在を
見ることが
できますが、これ
も村の特権として
直売所などでほぼ出回ることもなく、
村民の中で消費されていきます。村内では、
芽からほんの少し伸びたものも好まれ、だ
いたい収穫したその日のうちに食べるので、
伸びたとして全くえぐみ無く食べられます。
タラの芽の天ぷらで、お腹いっぱいとなる
ぜいたくは田舎でしか味わえないものです
かね。「まあ食べて」とどっさり、ぜいたく
をもらえることが待ち遠しい春です。

編集後記

もう一年前。かなり八角が効いた少しくせの強い味に最初は
困惑しましたが、食べ終わる頃にはすっかりそのクセの虜と
なっていた覚えがあります。歳を重ねると「普通」より少し
のクセを求めてしまうようになったな、と感じており、今ま
で食べるのが苦手だったものの魅力が分かるようになってき
て苦手の捉え方が好転している気がします。何かと新生活が
始まる春、皆様も苦手に一歩踏み出してみても如何でしょう。

シンガポールの「ホーカー」とい
いわゆるフードコートのところで、
現地メシ・チキンライスを食べたのが
困惑しましたが、食べ終わる頃にはす
っかりそのクセの強い味に最初は困
惑しましたが、食べ終わる頃にはす
っかりそのクセの虜となっていた覚え
があります。歳を重ねると「普通」よ
り少しのクセを求めてしまうようにな
ったな、と感じており、今まで食べる
のが苦手だったものの魅力が分かる
ようになってきて苦手の捉え方が好
転している気がします。何かと新生活
が始まる春、皆様も苦手に一歩踏み
出してみても如何でしょう。

うまい屯新聞

馬路村やナセ地区。

4月初旬に村の中で一番に、春を祝う桜祭りが開かれ
人々が集い、もちばい（お餅投げ）など盛大に行い
桜とともに村の中に春を呼び込みます。



馬路村への道
高尾山から室戸方面に約51km 国道55号
線を太平洋沿いに進めると安田町へ入る。
そして左に大きい魚が丸見えの左へ曲り、
安田川に沿って左へ進むと約20km、約30分。
県道12号線を走る事20km、約30分。
ひやうと馬路村に着きます。

ブログ
日々馬路村
ホームページ www.yuzu.or.jp

馬路温泉

ツルツルのお湯です。
ゆっくりここにまませんか。
宿泊やお問い合わせはこちら
0120-44-2026



令和7年 春
発行
馬路村農協

ヤナセ、千本山

馬路村ヤナセ地区の千本山。標高は1085mで圧巻の天然杉が立ち並び、その昔は留山（とめやま）として藩主によって管理がなされ、一般者の立入りが禁じられていたほど大切に守られてきた山で、現在は保護林として伐採が禁じられている、村の中でも特別な存在です。天然のヤナセ杉はきめ細かい木目が特徴的で、昔より神社仏閣を建てる際などの良材として扱われていたとして、馬路村のかつての林業の繁栄を感じさせる象徴でもあります。

今では登山用として、誰もが登ることができ、比較的なだらかな登山道が続きますので、親子連れでも楽しめる村の人気観光スポットとなっており「橋の大杉」「親子杉」「鉢巻落とし」など要所所で巨木に出会うこともできます。今でこそ



馬路村といえは
ゆず、と言っ
ただけること
多くなりました
が、もともとは
林業の村として
その名が知られ
村民のほとんど
が林業と関わり

あいながら暮らしていました。千本山を通して、馬路のゆずの前段として大きな産業が栄えていたことも学ぶことができるかもしれません。

馬路村の中でも大きくは馬路地区とヤナセ地区に分けられ、互いに車で30分ほどの距離があり、小さな村の中とはいえ、若干の環境の違いがあります。ヤナセ地区までは、海岸線から安田川沿いをのぼり、車で約1時間。山の奥のそのまた奥に位置しており、地区の人口は約150人、いわゆる限界集落とも言われるような土地柄でしょうか。本当ならいつ消滅してもおかしくない立地や人口なのではないかと、ヤナセ地区には小中学校もあり、かつての林業で培ったたくまし



さからか、皆があっけらかんとした笑顔を見せ、心豊かな暮らしをしているように見受けられます。近年では、馬路村がスノーピークさんや、DMMさんなど街の企業と提携し、これからの村の課題解決に取り組んでいこうとしているところで、村の中で観光やデジタル化での活性化はなされていくかもしれません、大事となってくるのが村民たちのたくましさ、他に他ならないと思っています。「人口減少、高齢化」全国がかかえる課題感をたくましいヤナセなら、甘えなく乗り越えられる、そんな気がしています。

